研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-136		21-314	慶應義塾大学　加藤眞三

題名（原題／訳）

Thiamine deficiency unrelated to alcohol consumption in high-income countries: a literature review

所得の高い国におけるアルコール摂取と無関係なチアミン欠乏症：文献レビュー

執筆者

Filomena Gomes [1], Gilles Bergeron [1], Megan W Bourassa [1], Philip R Fischer [2 3]

掲載誌

Ann N Y Acad Sci. 2021 Aug;1498(1):46-56. doi: 10.1111/nyas.14569.

キーワード	PMID
症例報告、症例研究、非アルコール性、チアミン欠乏症	33576090

要　旨

チアミン欠乏症は、アルコール依存症との関連や、チアミン含有量の少ない主食に依存する低・中所得国（LMICs）で一般的な問題として認識されている。我々は、先進国における非アルコール性の原因によるチアミン欠乏症と確認された成人症例を特定するために、公表および未公表のデータの文献調査を実施した。その結果、幅広い年齢層と基礎疾患（がん、消化器疾患、心不全、肥満など）を有する成人患者を対象としたチアミン欠乏症が確認された 17 報告、81 症例が選ばれた。チアミン欠乏症は、疾患に関連した栄養不良、肥満手術、利尿剤の慢性的使用、反復する嘔吐、非経口栄養製剤のチアミン不足、食糧難、単調または制限的な食事への依存によって引き起こされた可能性がある。チアミンの静脈内投与により、ほとんどの患者で症状（心臓、神経系、代謝障害）の一部または完全な回復が見られた。このレビューで確認されたチアミン欠乏症の成人の数と種類は、チアミン欠乏症が LMICs だけのものではなく、高所得の環境では、アルコール依存症患者だけのものではないことを実証している。先進国では、この深刻だが治療可能な状態は、様々な病状に悩む患者や特定の食事パターンに従っている患者で予想されるものである。